

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①進路希望の実現に向けた確かな学力の育成と生涯学習の視点に立った幅広い教養を身につけさせるカリキュラムマネジメントを行う。</p> <p>②主体的に学ぶ意欲を高めるための支援体制の充実と組織的な授業改善に積極的に取り組む。</p>	<p>①生涯学習の視点から、基礎的な知識の定着と探究的活動による確かな学力を育む。また、ICTの活用を通して新しい時代に必要とされる知識・技能を習得させる。その結果として生徒の希望進路の実現へと取り組む。</p> <p>②生徒の主体的な学習活動に結びつく学習環境の整備と仕組みづくりを行う。</p>	<p>①総合的な探究の時間では、PDCAサイクルを用いて課題を精選していく仕組みを作る。ICT活用研修を充実させ、全授業を通してのICT活用を発展させる。</p> <p>②フォローアップ週間やスタディサブリの活用を推進し、個々の生徒の学習意識を高める。自習室の活用を促進し、1, 2年生の早期利用を促す。授業改善では、各教科で短期・長期の目標を設定し取り組む。</p>	<p>①総合的な探究の時間において各生徒の課題や設定過程が発展・充実したか。ICTを活用した授業を推進・充実することができたか。</p> <p>②フォローアップ週間の講座開設や参加人数、スタディサブリや自習室の活用度を基に主体的に学習する生徒の割合が増えたか。各教科会を経て、共通目標を設定し探究的授業展開することができたか。</p>	<p>①課題の設定過程において、先を見据えた課題を立てることができた。ICTを活用した授業も増加傾向にある。</p> <p>②スタディサブリや自習室等の活用割合は増加しなかった。探究的授業の展開に向けた授業改善は実施できた。</p>	<p>①一部の生徒は、単に意見発表になってしまっていることがあった。ICTについては、より効果的な活用の場面の見極める等の工夫が必要である。</p> <p>②主体的に学習に取り組む姿勢を作る働きかけが必要である。</p>	<p>・生涯学習の視点について、大学受験はもちろんのことだが、そこにとどまらず、その先にある自身のキャリアにも視点を置き、進めることが重要である。</p> <p>・コロナ禍で整備の進んだICT学習の習慣化については、利用率等の数字以外の観点からも評価する必要がある。</p>	<p>①総合的な探究の時間において先を見据えた課題を立てることができた。今後は根拠をはっきりさせる等の論理的な思考力や表現力を身につける必要がある。</p> <p>②自習室の整備等、環境面は整えることができた。自学自習の習慣化については、利用率等の数字以外の観点からも評価する必要がある。</p>	<p>①総合探究以外の授業の場面でも、探究的な活動を増やし、特にデータ処理の知識・技能や、論理的思考力の育成を図る。</p> <p>②スタディサブリに関して、スタディプラスの導入により、さらに詳しく生徒の活用状況を分析することで、より効果的な活用方法を検討していく必要がある。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①他者を尊重し、認め合う人間性や社会性を育み、主体的な規範意識を育む。</p> <p>②生徒の主体的な活動としての部活動を支援する。</p> <p>③生徒に寄り添い、生徒理解を深めることで、心身ともに健康な生活が送れる支援を行う。</p>	<p>①「西高プライド」を意識した服装や行動などのマナーを徹底する。</p> <p>②部活動や学校行事等の全ての学校活動を通して、主体的に行動できる生徒を育成し、支援する。</p> <p>③(1)教育相談体制を充実させ、個に応じた支援体制を整備する。</p> <p>(2)いじめを出さない環境づくりに努める。</p>	<p>①身だしなみを中心に遅刻、授業規律、自転車乗車マナー、SNSの使い方等について段階的かつ継続的な指導を行う。</p> <p>②生徒会本部役員会や部長会、委員会等を定期的に開催し、各クラスや生徒の意見を吸い上げ、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>③(1)コーディネーター会議を充実させ、情報と方針の共有に努める。</p> <p>(2)いじめアンケートや個別相談の実施はもとより、日常の生徒間、教師生徒間のコミュニケーションの充実に努める。</p>	<p>①登下校の制服着用を中心に指導件数が減少し、地域社会の一員としての規範意識が育まれたか。</p> <p>②学校行事等にアンケートを実施し、生徒が満足できる学校生活を過ごしているか。</p> <p>③(1)必要に応じてコーディネーター会議を開催され情報と方針の共有ができたか。</p> <p>(2)いじめの早期発見といじめの起きない環境づくりができたか。</p>	<p>①校内校外ともに、ルールやマナー・規範意識が伴わない行動が一部で見られた。特に登下校での自転車関係の件で、地域からのご意見が多かった。</p> <p>②生徒会本部役員会や部長会、委員会等で生徒の意見を吸い上げ、生徒の主体的な活動を支援することは出来たが、全学校行事においてアンケートを実施することが出来なかった。</p> <p>③(1)コーディネーターの連携が取れ、共有シートを作成する等で生徒情報の共有が進んだ。</p> <p>(2)担任を中心に生徒とのコミュニケーションが取れ、いじめ案件はなかった。</p>	<p>①引き続き生徒が主体的に判断できる指導体制作りを行う。校内での主体的な行動が、地域でのマナー向上に繋がるよう努める。</p> <p>②学校行事ごとにアンケートを必ず実施し、生徒のニーズに応える学校生活や学校行事の在り方を考察していく。</p> <p>③(1)担任中心に共有シートの重要性を再確認し、生徒の情報共有をすすめる。</p> <p>(2)本校独自のいじめアンケートとかながわ子どもサポートドックとの関係性を整理し、いじめの早期発見をすすめる。いじめの起きない教員生徒間のコミュニケーションに努める。</p>	<p>・通勤の際、西高生とバスで一緒になる。身だしなみ等を含め、落ち着いた雰囲気である。</p> <p>・自分たちで気付かせることが大切。気付いたことを仲間と共有すれば、行動は変容する。</p> <p>・自分たちでルールを作らせることで、一層自主的な行動につながることを考える。</p> <p>・いじめ等の問題行動の防止に向けては、コミュニケーションをしっかりとれる環境づくりが大切である。</p> <p>・文化祭等でのキャッシュレス化の話題については、子どもや高齢者には対応できない場合が想定されるので、柔軟な対応をお願いする。</p>	<p>①外部からの身だしなみについての意見等はほとんどなくなり、登下校のバスマナーや自転車でのルール違反が目立った。校内での主体的な行動が、学校外でもできるようになることが課題である。</p> <p>②生徒会本部役員会や部長会、委員会等で生徒の意見を吸い上げ、生徒の主体的な活動を支援することができた。職員側と生徒側の両方から意見を聞き、次年度以降もアップデートした学校行事や部活動、日々の学校生活における支援を考えていく必要がある。</p> <p>③いじめがなかった年度だったが、引き続き、生徒が相談しやすい体制や教員とのコミュニケーションづくりを大切にすることが必要である。</p>	<p>①交通事故や指導上の問題等があっても、自分事と考えることができていない面がある。生徒指導Gと生徒会Gを統合する生徒支援Gを立ち上げ、生徒が自ら考える環境を整える。</p> <p>②Google フォームを用いて行事ごとにアンケートを実施し、生徒と教員からの意見を数値化し検討していく。また、学校生活に関する意見も同様に吸い上げ、日々の学校生活の支援に努めていく。</p> <p>③いじめに関わらず、普段から生徒が話しやすい、相談しやすい教員とのコミュニケーションづくりを大切にすることが必要である。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒の自己理解を深めさせ、将来に希望が持てるキャリア教育を行う。 ②社会の一員として、自己肯定感をもって社会貢献できる人材を育み、職業観を育む。	①幅広く経験を積み、自らの可能性を広げ、高い目標を設定できるとともに、主体的に情報を収集、取捨選択し、自分自身のキャリアにつなげる。 ②自己と社会のつながりを意識させ、多様な人と協力を身に着けるとともに、生涯学習の観点から、豊かな教養を身につけるような生徒を育成する。	①総合的な探究の時間や様々な学校内外の活動等に関連させたキャリア教育を計画し、生涯学習につながる活動にする。 ②進路実現に向け目指すべき自己像を常に意識できるようにする。進路ガイダンス等でキャリア教育を行う。また、その蓄積内容を行動につなげることができたか。	①総合的な探究の時間や様々な学校内外で得た主体的な学びが、進路実現の活動に活かされ、高い目標設定における進路実現ができたか。 ②進路ガイダンスやキャリアパスポートによる振り返りの中で、自己分析し、次のステップへの蓄積ができていくか。また、その蓄積内容を行動につなげることができたか。	①学校内外の様々な主体的な学びにより、自分自身で高い目標を設定することができた。 ②様々な活動の振り返りを行い、自己分析し、次のステップへの蓄積ができた。	①日常のステップを意識した取り組みが課題である。日々の達成感を積み重ね、自己肯定感を高めることが課題である。 ②目の前の活動が将来への繋がりに対して目標、振り返りや踏まえていくことが課題である。	・目の前のことをと決めて、その先に考えさせることは難しいと思うが、そう、進路指導を工夫することが大切である。 ・大学や専門学校、社会人など様々な立場の方から話を聞く機会を設けていくことである。是非継続してほしい。	①高い目標設定を行い、それに向かって日々の努力を積み重ねた結果、自己実現できた生徒は増えたが、同時に生涯学習の観点からの進路意識を高めることが課題である。 ②外部講師の話を聞く機会などを多く設定することで、社会との繋がりを意識した進路指導に取り組むことができたが、それを普段の学校生活の中に意識させることが課題である。	①キャリアパスポートやスタディサプリのアンケート機能等を利用して、高い目標設定を行うと同時に、スモールステップや生涯学習を意識した目標設定を立てて、自己実現を積み重ねていく。 ②放課後出前授業や進路ガイダンス等を実施する中で、社会や将来との繋がりを意識させ、活動前の目標設定や活動後のふりかえりを徹底し、答えのないことに答えを出していける力を養っていく。
4	地域等との協働	①地域との連携を深め、開かれた学校づくりに積極的に取り組む。	①(1)コミュニティースクールとなるべく地域活動を積極的に行う。 (2)生徒や保護者、地域に対して学校の情報をより多く発信・伝達し、意見要望を参考により良い学校づくりを行う。	①(1)地域貢献デー、遊園地西高等に多くの生徒が主体的に参加し、開かれた学校づくりを行う。 (2)ICT機器やお知らせメールの整備・活用により、生徒や保護者への速やかな情報伝達に努める。ホームページの更新回数を増やし、内容・レイアウトの工夫・改善を行い、地域や保護者、中学生に本校の良さを発信していく。また、地域との連携・協力を積極的に行うとともに寄せられた情報・意見をより良い学校づくりへ生かす。	①(1)生徒の参加人数や活動場所が増加したか。地域の方が笑顔が増え、満足できる行事となったか。 (2)ICT機器の整備状況やメール配信回数・登録者数の割合が増加したか。ホームページ更新回数とともに、内容の充実が見られたか。保護者・地域から寄せられた情報・意見により学校運営が改善されたか。	①(1)コロナも明けて、地域貢献デーや文化祭などで地域の方と接する機会が増えた。 (2)ICT機器の整備状況はあつた程度であったが、ホームページ更新回数は昨年度と同程度であった。	①(1)来年度も地域の方と交流できる機会を増やし、交流する人数を増やしていく。 (2)コロナ禍で整備したものの修理や交換が必要になってきたので目を配る。また行事の様子に追加して学年や教科、部活動の様子も配信できるようにする。	・西高生の活躍は市の広報やタウンニュースによく掲載されている。 ・大庭地区は市内でも活動が盛んな地域であり、その原動力として西高生の存在が大きい。とても感謝している。 ・県社会教育委員会の中でも西高生の活躍はよく話題になっている。	①コロナ禍に縮小していた行事もほとんど復活し、地域の方との交流する機会も増やせたので、来年度も継続していく。 ②校内の行事や部活動の活動状況について、学校ホームページを通して発信できるように整備することが課題と考えられる。	①生徒会や部活動の生徒と協力しながら、地域の方が参加できる機会を少しでも増やせるように、関係グループと連携していく。 ②地域の中で注目されていることや、地域との連携活動の成果などを校内に向けても発信できるよう情報収集に力を入れる。
5	学校管理 学校運営	①生活全般の安全意識を高め、自らの命を自ら守る防災意識を育む。 ②豊かな心を育む環境整備に努める。	①生徒・職員の防災意識を高める指導を行うとともに、学校全体で大規模災害時の対応を検討し、災害に備えて準備を進める。 ②校内や校舎周辺環境の整備・美化について環境整備委員、保護者や地域と連携しながら生徒の意識を高め、学校を大切にすることを育む。	①(1)年2回の防災訓練を通して、身近な防災への知識を身につけたり災害時の対応力を養成したりする。また、自らの命を守る行動や社会に貢献する態度を育てる。防災委員を中心に職員に対して防災授業の事前研修を実施し、防災教育への理解と実行を担うスキルを育成する。防災マニュアルを活用して職員の危機管理や防災意識を高める。 (2)防災用具等を充実させ、適切な管理や使用方法について確認・共有する。 ②(1)PTAの協力を得て校内外の環境整備に努める。 (2)生徒環境整備委員の清掃点検や職員による清掃への呼びかけ・点検を実施し、日頃の環境美化意識を醸成していく。	①(1)防災計画に基づいて、実践的な防災訓練を実施し、生徒や職員の防災意識や有効な知識や技術を身につけられたか。職員が防災プログラムの目的や意義、実施内容や指導法を理解できたか。 (2)防災マニュアルを活用して職員の防災意識を醸成していくプログラムを考案し、実行できたか。防災用品の充実について、教育のデジタル化にも対応する視点で防災用品を検討できたか。 ②(1)PTA環境整備委員会との連携を月1回程度取ることはできたか。 (2)生徒環境整備委員や職員の働きかけにより、校内各箇所が適切に清掃され環境美化意識が醸成されたか。	①防災計画に基づき、防災訓練を実施し、防災意識を高めることができた。また、防災倉庫の物品等を把握し、必要な防災用品を補充し、備品管理を行うことが出来た。 ②PTA環境整備委員と生徒環境整備委員の連携を深め、PTAと生徒が協働する機会を増やして日々の美化意識を高めていく。	・防災教育として3年間かけて「自助、共助、公助」に取り組んでいることであるが、地域の防災関係の会議でもその話しをしている。大庭地区は災害に強い地域といわれているが、市南部からの避難者が来ることで、地域として西高の取組はとて評価できる状況の場合は、ぜひ協力を願う。 ・実践的な防災訓練の実施や防災用品の見直しを評価できる。	①防災計画に基づき、防災意識を高めることができた。その高い防災意識を継続して持たせるような工夫が必要となる。また、防災倉庫の物品等を把握し、必要な防災用品を補充し、備品管理をデータで行うことができた。 ②PTA環境整備委員と連携を図りながら、校内外の美化に努めることができた。生徒環境整備委員による校内点検、清掃の実施も行った。それでも難しい箇所に関しては予算を付けて業者をお願いする必要性も考えていく。	①地域の防災関係の会議にも積極的に参加していき、地域の防災に関する考えや取組を知り、本校の考えとすり合わせが必要である。地域を守る立場であることを生徒へ意識させていきたい。 ②PTA環境整備委員と生徒環境整備委員の連携を深め、PTAと生徒が協働する機会を増やして日々の美化意識を高めていく工夫を考えていく。手の届かない箇所の業者による清掃も実施していき、綺麗な学校を保っていく。	